

令和8年度「語り部団体ハンズオン支援事業」選定結果について

復興庁では、被災地において伝承活動に取り組む団体が、自らの活動を拡充・創出しながら「地域内での協力体制」や「地域内外とのネットワーク」を構築しつつ自走的に活動し、ステップアップしていく力を増進できるよう、各語り部団体のニーズに応じた伴走的な支援として、「語り部団体ハンズオン支援事業」を実施いたします。

この度、本年5月25日より募集をしていた本事業の支援対象団体について、次のとおり選定しましたので、結果を公表いたします。

○ 支援対象団体 2団体

- ・ 原子力災害考証館 furusato（福島県いわき市）
- ・ シネマ・デ・アエルプロジェクト（岩手県宮古市）

※ 詳細は別紙をご覧ください。

【資料】

- 別紙 令和8年度「語り部団体ハンズオン支援事業」支援対象団体

本件連絡先：
復興庁復興知見班 澤村、目時
TEL：03-6328-0238

令和8年度「語り部団体ハンズオン支援事業」支援対象団体

1. 原子力災害考証館 furusato（福島県いわき市）

<支援概要>

原子力災害による被害の克服に向けた「草の根の取組」に関する展示や語り部活動を継続的に実施できる体制を整えるため、組織運営におけるDXの導入等、効率化と質の向上に資する支援を行う。

また、次世代の語り部の候補者のネットワーク構築や、語り部スキル向上に向けた研修の設計を進める。

さらに、組織の発信力及びプレゼンスの向上のため、イベントの展示物やブックレットの作成等の支援を行う。

2. シネマ・デ・アエルプロジェクト（岩手県宮古市）

<支援概要>

東日本大震災及びその復興を題材としたドキュメンタリーやドラマといった映像資料を記録による「語り部」として保存・活用するため、当該資料のアーカイブ化及び活用方法の体系化に向けた体制の構築を進めるほか、三陸沿岸の地域間の連携強化と鑑賞・体験機会の拡充を図るため、上映拠点を連動させた広域的な上映モデルを設計する。

また、次世代の担い手を確保するため、若手映像制作者・上映者の育成プログラムの設計や協力機関との連携強化の方法を検討する。

さらに、持続可能な運営体制を確立するため、事業化に向けた資金調達の手法に関する助言や広域連携の枠組みづくりに関する支援を行う。